



入門者のための

Frequently Asked Question

FAQ

このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあと思っている疑問、困っていることなどありましたら
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。

A. 最近では、インターネット関係の雑誌がたくさん出版され、容易にメーリングリストを調べることができるようになってきましたが、それまでは目的のメーリングリストを見つけるのはなかなか大変な作業でした。実は、一番多かったのはクチコミだったのかもしれませんが、しかし、これでは答えにならないと思うので、いくつかいい方法を紹介したいと思います。一番いいと思われる方法は、NetNewsを丹念に調べる方法です。これは、多くのメーリングリストが発生する経緯に関連しています。NetNewsは、多くの人が見るものですから、逆に特定の細かい話をしようとするとうまく進まないことがあるようです。そこで、特定の話題に興味を持った人たちが集まってメーリングリストを立ち上げるということになるようです。たとえば、fj.rec.musicという音楽の話題のニュースグループの中から、特定のミュージシャンのファンが集まったメーリングリストが発生するという具合です。このようなメーリングリスト立ち上げの瞬間に立ち会うことができると非常に面白いと思いますが、そうでない場合でも、多くのメーリングリストでは参加者募集のメッセージをNetNewsに投稿しているところがありますから、探してみるのがいいと思います。

また、「こんなメーリングリストはないの?」と聞いてみてもいいでしょう。NetNewsの場合、ニュースグループによって話題の分野を限定していますから、まとはずれな質問になることは少ないと思います。これはパソコン通信のフォーラムなどでも同様で、最近ではほとんどのパソコン通信がインタ

メーリングリストに入りたいのですが、どんなメーリングリストがあるかということは、雑誌の情報以外にどうやって調べたらいいですか。
(匿名希望)

ーネットと接続されていますから、そういった場所でもメーリングリストに関する情報を見つけることができるでしょう。

もう一つ、メーリングリストを探す方法は、関連する話題の国際会議やミーティングなどに出席する方法です。とくに、インターネット技術に関するメーリングリストなどはインターネットソサエティの国際会議やIETF(Internet Engineering Task-Force)などに出席していると、会場のあちこちで知ることができるようになっていま

す。また、こういうところに出席することで、人のネットワークを広げることも重要かもしれませんね。

ユーザー会や学会に参加することも1つの手段です。インターネット関連の学会としてはインターネットソサエティがありますが、すでに日本支部も誕生しており、積極的に参加することをお勧めします。また、直接インターネットとは関係ありませんが、日本UNIXユーザー会や日本サン・ユーザー・グループなどのユーザー会でも情報を得ることができるでしょう。

以上、ここで紹介した手段は、メーリングリストだけでなく、Anonymous FTPのサイトやWWWのサーバーを探す場合にも有効なものです。また、メーリングリストからWWWサーバ-を知ることができたり、Anonymous FTPに置かれた文書からメーリングリストの存在を知ることができたりもしますから、お互いに参照してみるといいのではないのでしょうか?

最後に、インターネットソサエティ、日本UNIXユーザー会、日本サン・ユーザー・グループの連絡先を紹介しておきます。

Internet Society
Internet Society
Suite 100
1895 Preston White Drive

回答者 砂原秀樹

奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
電気通信大学情報工学科助教授（併任）
WIDE プロジェクト・ボードメンバー。
日本でのインターネット普及のために
研究と後輩の指導に努めている。

Reston, VA 22091-5434

U.S.A.

E-Mail: info@isoc.org

日本UNIXユーザー会

(Japan UNIX Society:jus)

〒160 東京都新宿区四谷3丁目12番地 丸正ビル

5F 日本UNIXユーザー会事務局

Te103-3356-0156

Fax03-3356-1094

E-Mail: office@jus.or.jp

日本サン・ユーザー・グループ

(Nihon Sun User Group: NSUG)

〒158 東京都世田谷区用賀4-10-1 SBS タワー

日本サン・ユーザー・グループ事務局

Te103-5717-5090

Fax03-5717-2584

E-Mail: office@nsug.or.jp

電子メールで送信する際、データサイズの決まりはあるのでしょうか？あまり大きなデータを送信すると、送信に時間がかかるばかりか、ネットワークを利用している他の人にも迷惑をかけることになると思うのですが、自主規制の範囲なのでしょうか？ちなみに、私は50Kバイトを基準に、50Kバイト以上のものは分割して送信するようにしています。（安藤裕治さん）

A. その昔、全国がUUCPで接続されていた時代には、途中で中継するコンピュータのディスクがあふれてしまうため、大きなメールを送る際には分割して送るというマナーがあったこともありますが、現在では少し状況は変わってきています。現在では、ほとんどの場合、途中でメ

ッセージを格納して中継する方式ではなく、直接受け取り人のコンピュータにメッセージを送るという方式に変わってきているため、問題となるのは受取人のコンピュータのディスク容量だけになってきています。また、電子メールを分割して送るとはいえ、結局全部送るので、ネットワーク全体に与える負担にそれほど差はありません（逆に増える場合もあります）。

というわけで、何Mバイトものソースコードを全部送るといった巨大なメールを送らないかぎり、あまり気にすることはないと思います（1Mバイトあたりが判断のポイントでしょうか）。ただし、ニフティサーブのように、受け取るメールの大きさや数を制限しているところもありますから、受け取る側を考慮して電子メールを送るようにすればいいでしょう。

ダイヤルアップ接続を検討しています。ダイヤルアップIP接続の場合、相手からの到着メールのお知らせはこちらからダイヤルアップしないと確認できないのでしょうか？ネットワークプロバイダーからの自動通知などはサポートされないのですか？また、UUCP接続ならば可能なのでしょうか？

（PC-VANのPALCOMさん）

A. ダイヤルアップIP接続の場合もUUCP接続の場合も、こちらからネットワークプロバイダーに電話をしてはじめてネットワークがつながった状態に

なりますから、プロバイダー側から「お知らせ」をしようとしてもできないわけです。

プロバイダー側から電話をかけてくるようなサービスが用意されていればいいのですが、残念ながら現在のところそうしたサービスを提供しているところはないようです。まあこのようなサービスがあった場合でも、悪質なプロバイダーが登場すると、無理矢理電話をかけてきて、目の玉が飛び出るような請求書を送りつけてくるという問題が発生するかもしれません。また、このようなサービスに対応するためには、こちら側のシステムもUNIXのようなマルチユーザーシステムで、常時電源を入れておく必然性が出てきます。こうなってしまうと、WindowsやMacなどから気軽に利用でき

るダイヤルアップIP接続のいいところが失われてしまいますね。

本格的にインターネットを利用するためには、実は専用線接続で常時インターネットと接続されている状態にしておくことが望ましいでしょう。そうすれば、メールの到着も随時知ることができるようになります。ただ、現状では料金的に難しいかもしれませんね。現在、NTTなどがデータ通信での利用に限った専用線サービスを検討しているそうです。これを用いると非常に安く専用線接続ができるようになる可能性が出てきます。こうしたインターネット時代に合わせたサービスが早く登場するといいですね。

A. ■ ダイアルアップIP接続の場合には、第4号に掲載されている通り、NNTPというプロトコルに対応したニュースリーダーをインストールすることで、簡単に読めるようになりますね。これは、ニュースプールと呼ばれる、ネットニュースを保存しておくディスクスペースをネットワークプロバイダー側が用意しているからです。

専用線接続の場合には、ダイアルアップIP接続の場合と同様に、ニュースリーダーだけを用意して、このプロバイダー側が用意しているニュースプールを利用することもできますが(プロバイダーによって提供されている場合とそうでない場合があるので注意してください)、通常、専用線接続をする場合は、多くの利用者への提供を想定していると思われるから、自分でニ

A. ■ 同じハードウェアで利用できることから、いわゆるパソコン通信での接続方法とダイアルアップIP接続を混同されている方が多いようですが、根本的に異なるしくみですので注意してください。パソコン通信の端末ソフトウェアの場合、端末ソフトウェア自身がパソコンのRS-232Cに直接働きかけ、モデムを操って電話をかけたたり、データを授受したりしています。つまり、パソコン通信の場合、端末ソフトウェアは図1のようにパソコン通信のホストコンピュータに直接接続して通信をしていることになります。

これに対して、ダイアルアップIP接続の場合、RS-232Cに働きかけてモデムを操るのは、ChameleonやMacPPPなどのインターネットソフトウェアです。これらのソフトウェアでは、インターネットでの通信の

インターネットのネットニュースを読みたいのですが、どのような設定をすればいいのが教えてください。ダイアルアップIP接続ではニュースリーダーをパソコンにインストールするだけで大丈夫だと思いますが、専用線接続の場合にはどうすればいいのでしょうか？

(小糸正彦さん)

ースプールを用意したほうがいいでしょう。そのためには、NetNewsを管理するためのソフトウェアであるCニュースシステムやinnと呼ばれるシステムを導入しなければなりません(innを利用することをお勧めします)。これらのソフトウェアはフリーソフト

基本となるTCPやIPといったプロトコル処理を行っています。そして、ユーザーはこうしたインターネットソフトウェアの上で動作するアプリケーション(telnetやftp、Mosaicなど)を利用してインターネットにアクセスしています。このとき、これらの

BEKKOAMEと契約し、家からもインターネットにダイアルアップIP接続できるようになりました。しかし、以前からニフティサーブを利用していたのでそちらも継続してアクセスしようと思っています。インターネットのtelnetを経由してニフティサーブを利用すると速いということを知ったのですが、ComNifty(ニフティ専用の通信ソフト)を使ってオートパイロットすることはできるのでしょうか。

(小林朋行さん)

ウェアなので、さまざまなAnonymous FTPサイトから入手できるでしょう。マルチユーザーでの利用を前提としていますから、これらのソフトウェアを動作させるためにはUNIX環境が必要になってきます。あとは、好みのニュースリーダーを用意し、プロバイダー側から必要なニュースグループを送ってもらうように設定してもらうことでNetNewsが読めるようになります。

UUCP接続の場合には、自分でニュースプールを持たなければなりません。この場合も専用線接続の場合と同様に、innなどのシステムを導入し、プロバイダー側から必要なニュースグループを送ってもらうように設定してもらわなければなりません。innなどの設定は、それほど難しいものではありませんから、ソフトウェアに付属するドキュメントを参照してください。

アプリケーションソフトは直接RS-232Cやモデムを操るのではなく、図1に示したように、インターネットソフトを経由して利用している点に注意してください。つまり、RS-232Cを2つのソフトウェアで取り合うことになりますから、ComNiftyなどのソフトウェアはそのままインターネットソフトウェアとともに用いることはできないのです。

しかし、心配することはありません。インターネットソフトウェアの上で動作するパソコン通信用のオートパイロットプログラムがいくつか開発されています。残念ながら、ほとんどのものがUNIX環境での利用を前提としているため、Windowsなどの環境ですぐ利用するというわけにはいきませんが、すでにUNIX環境からインターネットを利用している場合には、非常に便利なので役に立つのではないのでしょうか。こ



入門者のための

FAQ

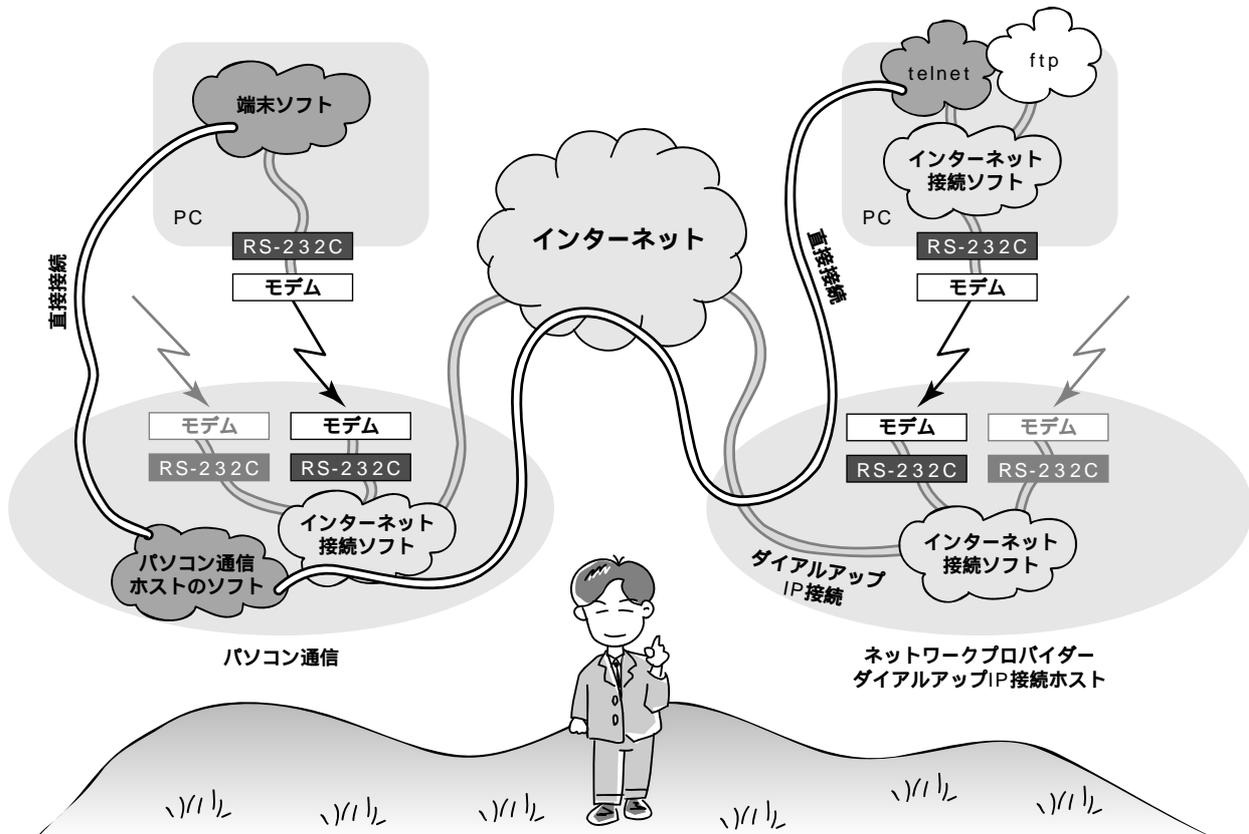


図1 パソコン通信の端末ソフトとダイヤルアップIP接続

うしたソフトウェアの中で最も有名なものはnifty4uと呼ばれるソフトウェアで、指定したフォーラムのメッセージを取り込み、NetNewsとして扱えるようにするソフトウェアです。

<ftp://ftp.iij.ad.jp/pub/network/telnetx/nifty4u-1.4.tar.gz>

などから入手できます。

また、Emacsをフロントエンドとしたオートパイロットプログラムもあるようです。

現在、GUI型のソフトウェアも開発され

ているようですから、間もなくWindowsやMacからでもパソコン通信を自由自在に扱えるようになるでしょう。

最後に、インターネット経由のパソコン通信接続が非常に得だと思われる方が多いようですが、これは、すでに専用回線でインターネットに接続されている場合の話です。ダイヤルアップIP接続の場合には、ダイヤルアップIPでの接続料や通信速度を考慮すると、それほど得ではない場合もあるようです。バランスを考えてうまく運用

するほうがいいでしょう。

今のところ、高速で利用できるパソコン通信のアクセスポイントが近くにある場合には、インターネットはダイヤルアップIPで、パソコン通信は端末ソフトウェアでアクセスしたほうがいいでしょう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp